

## 台湾の海藻事情

高知大学名誉教授 大野 正夫

2018年より3年の間に3回台湾の海藻養殖や海藻食材・料理を見たり、食したりする機会があったので、台湾の海藻事情をまとめた。

台湾の南にある高尾市のスーパーでは、日本の多くのスーパーより広い海藻陳列コーナーがあり、海苔・昆布・乾燥わかめ、海藻が入ったスナックやインスタント食品が陳列されていた。コンビニストアにはインスタントわかめ味噌汁や海苔おにぎりが売られており、陳列量も日本と変わりがなかった。筆者は夜食にわかめスープで海苔おにぎり食べていたが、日本での味と変わらなかった。

台湾でも高尾など南の地域が海藻を多く使うと聞かされたが、それでもこれほど、台湾で海藻が多くに食材に使われているのには驚いた。高尾の若者たちは、海苔おにぎりを好んで食べるという。

海苔やヒトエグサを食する家庭は多く、白身の魚肉団子などを入れたスープに使われている。日本にはない料理である。皆、炒め料理の間に、時々、海藻スープを口にしていた。昆布は炒めたり、煮物に入れられていた。



澎湖島のレストランで、海苔のスープとヒトエグサのスープ

### 海苔の養殖

多くのスーパーで売られている海苔は、日本型板海苔 *P.ezoensis* と中国型の葉体を刻まず円盤に干し“紫菜”と呼ばれている *P.haitanensis* である。ノリの養殖は、金門島の下方に位置する澎湖島（ぼうこうとう）で、かなり広い規模行われている。



“紫菜”ノリ養殖は、11月に、写真のように網が張られて、3～5月が収穫期である。波浪が強く、1.5m x 10のノリ網が広い平坦な岩礁海岸に、広く張られていた。

収穫は潮が長く引く大潮時にするが、加工は手作業で天日干しであり、価格は板状の海苔よりも高く、漁場者のよい収入になっている

澎湖島の広い岩場に竹で組まれた海苔養殖施設。天然採苗法で行われている



澎湖島の港がある広い入り江には、板海苔の支柱式ノリ網が張られていた。

写真に示すように、中央の棒は、網を調整する干満の指標棒である。

ノリ網は、日本で行われている貝殻からの人工採苗法で、水産試験場のなかに、種苗生産施設があった。

養殖の規模から、台湾国内での海苔需要を満たすほどに養殖され

ていると推察された。現在、ヒトエグサの需要が伸びて、人工種苗での網養殖試験が始まり、北里大学を定年退職し台湾海洋大学教授となっている小河久朗氏が指導している。



#### 海苔だけのスープ

台湾の最南端の水族館の近くに食材即売所が開かれており、海藻だけを売っている店があり、海苔、昆布、オゴノリが、売られていた。そこにテーブルと椅子があり、写真の海苔だけのスープが売られていた。観光客は、お茶代わりに食するのだろうか。

#### 昆布とオゴノリ



刻み昆布



石灰処理しグリーンにしたオゴノリ

その海藻専門店には、昆布を水にもどした刻み昆布とグリーン色のオゴノリが、売られていた。高尾市内のスーパーには、乾燥品ばかりであるが、地方ではこのような売り方もあるそうです。台湾では、オゴノリをいれたサラダが、よく食されていると聞いていたが、このようにグリーンにしてサラダに使うことを知った。

最近、台湾では、サラダ料理のなかに海藻を入れる料理が広まっているようである。そこで注目されている海藻は、アツバノリである（写真）。高尾市の水産試験場を訪問した時に、場内の水槽でアツバノリのタンク養殖試験をしていた。



国立高尾水産試験場でタンク養殖していたアツバノリ

台湾東部で、アツバノリのタンク培養を事業としている業者があり、ホームページで、培養状況を動画配信していた。どの程度の利用か、需要量もわからない。現在、海洋深層水を使った事業レベルのアツバノリタンク培養試験が行われており、地下海水でタンク養殖を行っている業者もいると聞いた。アツバノリはきれいな紅藻であり台湾で、サラダ用食材に需要が増すことが期待されている。

#### 複合養殖にオゴノリ使用



台湾では、かつてオゴノリとエビの混合養殖が盛んであった。しかしエビの病気で大量へい死をして、エビ・オゴノリ混合養殖はほとんど行われなくなった。

その後、高尾地域では、トコブシの餌として、小規模であるがオゴノリ養殖が行われている。トコブシは混合飼料で籠に入れて養殖されているが、成貝になり出荷前暫く、トコブシを飼料にすると肉質が良くなるそうである。

国立高尾水産研究所の複合養殖池。正面がオゴノリ養殖池、左が魚類養殖池

2020年に、高尾市の水産試験場を訪問した時に、幅10m、長さ30mほどの海水池でオゴノリが養殖されていた。これは複合式養殖システムで、隣の池には魚類が養殖されていた。オゴノリ池は浄化作用が主目的であった。しかもトコブシの餌としても使われていた。



魚類池とオゴノリ池とは連結していて、潮の干満差を利用して循環させていた。

敷地内に広い工場のような建物があり、そこでは籠を積み上げた水槽がありトコブシが籠養殖されている。訪問した時は、トコブシ養殖のシーズンオフで、みることはできなかったが、そこで飼料としてオゴノリが使われている。水産試験場の方針として事業規模の試験をする。この方が、民間業者

への技術移転が容易だと言われた。**オゴノリ池で養殖されているオゴノリ類**

日本の水産研究施設にはない考え方である。このように、台湾ではオゴノリの養殖には長い歴史があり利用の仕方も変遷している。台湾の海藻研究者から、台湾での海藻資源の需要は、今後増すであろうと言われた。